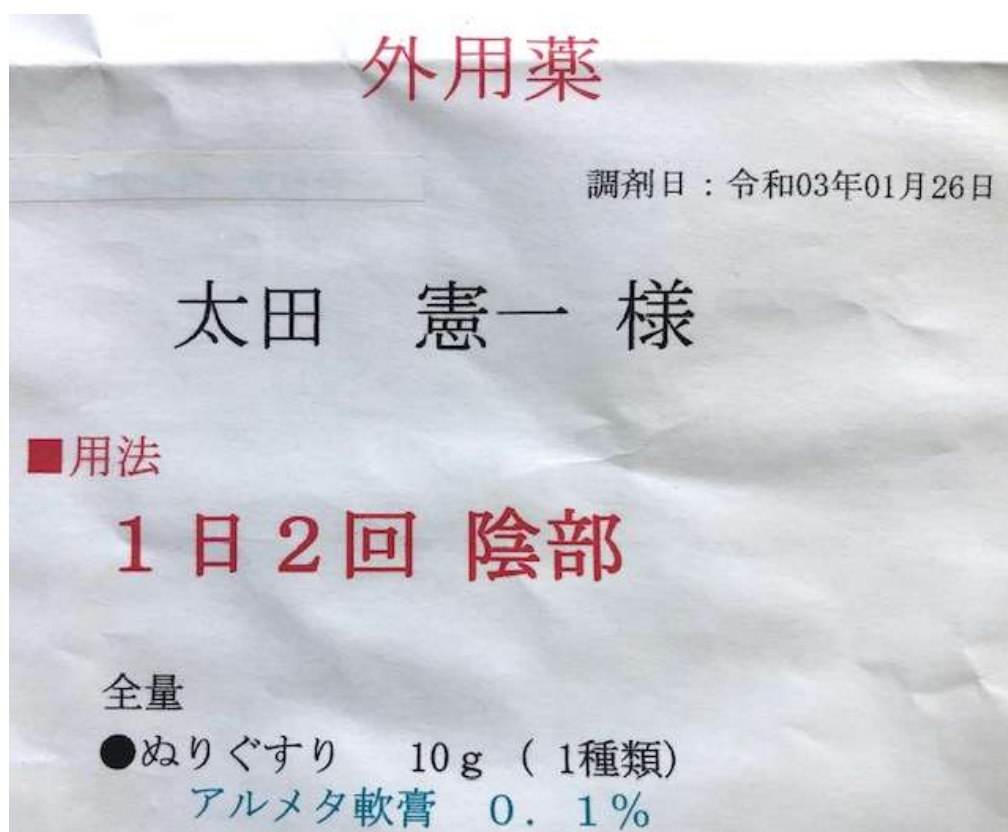


# 太田東西かわら版

おんころころせんだりまとうぎそわか

2021.3

## 肌に合わない関係



1月下旬、体調を崩して久しぶりに病院を受診しました。

「薬での限界」「自分で治す限界」を感じたからです。

どんな不調だったかということ・・・写真の薬袋で推測してください(^-^);

猛烈に“アソコ”が・・・かゆくなって、眠れなくなったのです。

そのかゆみといたら、一旦かき始めると“どうにも止まらない”・・・。

大切な“あそこ”は傷だらけとなり、悲惨な状態になったのでした（泣）

陰部のかゆみが長引く場合は、薬を選択するための検査が必須。  
特に陰部の場合、薬の選択を誤ると、効かないばかりか悪化させます。

かゆみの原因が、炎症なのか？感染症なのか？  
感染症の場合、細菌感染なのか？真菌感染なのか？  
真菌感染は俗に、「いんきんたむし」と呼ばれます。

その判別のためには、陰部の表皮を採取して顕微鏡で検査します。  
それはお医者様の前で、“アソコをあらわに出す”ということです。

アソコをあらわに出す・・・・・・・・・・・・・・・・(//▽//)

しかし、かゆみから一日でも早く解放されたい。それには“人前を出す”  
必要がある。葛藤の末、「出して原因を突き止める！」ことに。

皮膚科の先生は女医さん。「脱いでここに寝てください」と言われ、覚悟を  
決めました。(所詮、大したものでもない。今更何を恥ずかしがる)

検査の結果、「真菌（一）」。他の感染症もなく、「かぶれ」という診断で  
ステロイドの塗り薬が処方されました。

「何に対しての、かぶれなのか？」 「なぜ、かぶれたのか？」  
その説明は全くありませんでした。

「どうしてこの患者さんがこの病気になったのか？」

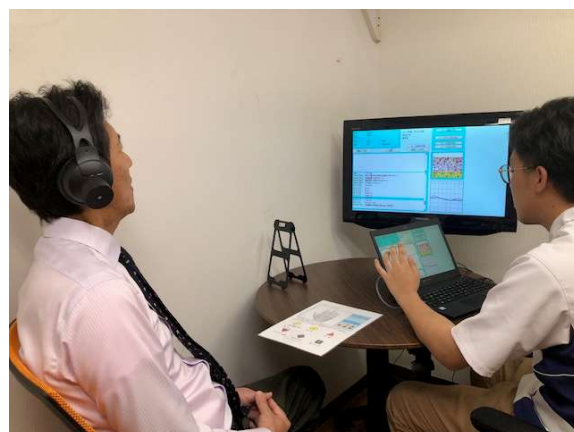
今の医療には、やはり人間的考察が欠けている。  
久しぶりに患者になったことで、改めてそう実感しました。

「それなら、自分で見つけ出すしかない！」  
薬局に新しく導入した機器

《**ニュースキャン**》を使って  
根本原因を探究することにしました。

発症する数日前、1週間前、1ヶ月前  
何をしていたか？

結果、原因が特定されました。



原因は、衣食住の「衣」にありました。  
自分の肌に合わない物質のトップに  
**<ポリエステル>**と表示。

0	0.183	ポリステロール
0	0.323	ポリエステル
0	0.330	アクリル酸塩
0	0.361	メチルメタクリレート
0	0.397	ビリン
0	0.426	アミン
0	0.447	麻
0	0.449	アセチルコリン塩酸
0	0.463	ベニリン
0	0.466	シルバード(ヨウソウシルケンパイ)
0	0.467	メルカプタン(チオアルコール)
0	0.470	トルエン
0	0.472	ニトロフラン
0	0.484	イソプロピルアルコール
0	0.493	酸性リジン
0	0.494	アジドミン(AZT)
0	0.511	...

繊維やペットボトルなどに使われる。ボタンなどの成形品、ガラス繊維などで強化して、船舶・ボートなどに使われるもの。ポリエステルに不飽和基を含ませ、スチレンなどのビニル基をもったモノマーと成形時に共重合させる。不飽和ポリエステルという。アルキド樹脂・油脂や他の樹脂(たとえばエポキシ樹脂)をも反応に加えて、変性(性質を調整)したポリエステル樹脂。

そういえば、スポーツタイツをはいて  
数回ジョギングした後から、次第に  
かゆくなった、と気づきました。

スポーツタイツの成分タグを見ると  
**<ポリエステル 100%>**

さらに、ポリエステルと自分の肌の  
どんな関係が合わないのか？探っていくと  
ポリエステルに対してのアレルギー反応ではなく、帯電しやすいポリエステル  
が起こす**<静電気>**。それが刺激となり、かぶれとなっていました。

天然の綿・麻・絹と違って、合成繊維は静電気を発生しやすい衣類です。  
ポリエステルはじめ、ナイロン、アクリル、レーヨンといった石油を原料に  
製造された衣類は、乾燥した冬、知らず知らず静電気を帯電させます。

肌着の成分は？寝具は？と調べてみると→  
ほとんどが合成繊維。

「ポカポカ」「温か〜い」「シワにならない」  
「伸縮性抜群」「超軽量」といった表記の  
衣類・寝具の大半は合成繊維です。

生地	ナイロン	50%
	ポリエステル	50%
詰物	ポリエステル	100%

便利で安価な合成繊維からできた衣類・寝具。確かに「家計にはやさしい」。  
しかし「肌には厳しい」素材だと身を持って体験しました。  
いや、肌に限らず合成繊維を常に身に付けることは、スマートフォンを常時  
握って電磁波で体調を崩すことと同じではないか？

<肌に合わない関係>に気づいて  
合成繊維の冬物肌着、パジャマ、布団。

押し入れから全部引っ張り出して  
“断捨離”しました！

ゴミ袋10個分になりました！



## 「世の中、人工合成品ばかり」

今回、自分の病気から改めて感じたことです。

インスタント食品、食品添加物、化学調味料、農薬、肥料など。  
食品だけではなく、衣類もほとんどが合成品です。



＜オトコの温活＞の表示のみ見るか？  
本体の成分組成も見て、どうするか？

人工合成品とは、自然界に存在しない、人間が造り上げた物質です。  
衣類だけではなく、洗剤も、シャンプーも。そして『病院の薬』も。

着る物・食べる物・住む場所。現代人の衣食住は、自然界には存在しない  
“不自然な” 多くのものに囲まれています。利便性と生産性の面から見れば  
合成品の恩恵を十分に受けています。＜合成品＝悪＞と考えるのではなく、  
「いかに合成品と付き合っていくか？」という考え方が大切になります。

世界の総人口がもうすぐ80億になろうとする今。天然の衣食住は不可能。  
しかし、安易に“合成品漬け”になり、自然観を忘れて日本人が多いから  
「病気も医療費も増加の一途」なのではないか？

【自然の中で人間は生かされている】。その意識が希薄な人ほど、昨年からの  
新型コロナウイルスを過度に恐れ、合成品の消毒薬・抗ウイルス薬・ワクチン  
で徹底的に撲滅しようとする“不自然な”行動をとるのではないか？

さて、合成繊維が肌に合わず、陰部のかゆみを発症したという今回の内容に  
「自分はどうもないのに、太田先生の“アソコ”が過敏なだけじゃないの？」  
と思われた方に申し上げます！(^-^);

人工合成衣類が肌に合わない人を、異常だと思うか？ 正常だと思うか？  
「異常」だと思う今の常識こそが、私は「異常」だと思います。  
合成品大好きの人たちと私は、“肌に合わない” 関係でもありますね。😊